

会議録

会議の名称	第4回 清須市総合計画審議会
開催日時	令和元年9月25日(水) 午前9時30分～午前11時43分
開催場所	清須市役所 南館3階 大会議室
議題	1 開会 2 あいさつ 3 議事 清須市第2次総合計画 後期基本計画(案)について 4 閉会
会議資料	会議次第、委員名簿、配席図 〔会議資料〕 資料1 清須市第2次総合計画 後期基本計画の策定のながれ 資料2 第3回 総合計画審議会における主な意見等 資料3 第6回(平成30年度) 市民満足度調査報告書 資料4 清須市第2次総合計画 後期基本計画(2020-2024)(案) 資料5 第3回 総合計画審議会での意見等を踏まえた主な修正点 資料6 パブリック・コメントの実施について 参考資料1 清須市第2次総合計画 序論 参考資料2 清須市第2次総合計画 基本構想
公開・非公開の別(非公開の場合はその理由)	公開
傍聴人の数	1人
出席委員	福田委員、水野委員、加藤委員、飯田委員、時田委員、堀田委員、河野委員、後藤委員、渡辺(玲)委員、野田委員(会長)、水谷委員(副会長)、山田委員、前田委員、高山委員、渡辺(康)委員、浅田委員
欠席委員	齋藤委員
出席者(市)	永田市長、葛谷副市長、齋藤教育長、宮崎企画部長、平子総務部長、栗本市民環境部長、河口健康福祉部長、永渕建設部長、吉田会計管理者、浅田議会事務局長、加藤教育部長、三輪監査委員事務局長

事 務 局	〔企画部企画政策課（企画政策係）〕 後藤課長、服部課長補佐兼係長、河村副主幹、石附主査
会議録署名委員	河野委員、後藤委員
<p>1 開会 （後藤企画政策課長） それでは皆様、お待たせいたしました。 ただいまから第4回 清須市総合計画審議会を開催させていただきます。 皆様方には本日、大変お忙しい中、早朝よりご出席いただきまして誠にありがとうございます。 私は企画政策課長の後藤でございます。よろしくお願いいたします。 それでは、開会に先立ちまして、委員の出席状況についてご報告をさせていただきます。 本日、齋藤委員から欠席の報告を受けておりますが、委員の過半数以上の方が出席されておりますので、清須市総合計画審議会設置条例第6条第2項の規定によりまして、本会議が成立していることをご報告いたします。 なお、この会議は、清須市附属機関等の会議の公開に関する要綱第3条の規定により公開会議となっていますので、よろしくお願いいたします。 それでは、会議の開催に当たりまして、永田市長からご挨拶を申し上げます。</p> <p>2 あいさつ （永田市長） 改めましておはようございます。 お彼岸を迎えた時期になりましたけれども、まだ暑い日が続いているようでございます。 本日は委員の皆様方、本当にお忙しい中、第4回の清須市総合計画審議会にご出席を賜りました。誠にありがとうございます。おかげをもちまして、後期基本計画も出来上がりつつありまして、次回の審議会ではご答申をいただけると、そんな予定と伺っております。 本日は、次回の答申に向けて、37の施策を中心に計画のさらなる磨き上げをお願い申し上げたいと思っております。 清須市は出生率が県内でも高い位置にございまして、去年は第2位になったのですけれども、1位が長久手市でした。一去年は清須市が1位で、長久手市が2位であったということで、西尾張では清須市は突出して出生率が高いのかなというふうに思っております。人口の方につきましても、少しずつではありますが伸びている状況でございまして、インフラ整備につきましても、また住民サービスにつきましても、限りある予算の範囲内ではございますけれども、少しずつ進んでいるのかな</p>	

と思っております。

トピックス的には、小中学校のエアコンにつきまして、今年の6月中に全ての小中学校に設置できました。そして、懸案となっておりました火葬場につきましても、先般、本体工事の入札が成立をいたしまして、組合議会でも議決をいただいたということで、着実に進めていきたいと思っております。

委員の皆様方には、それぞれのお立場で活発なご意見を頂戴いたしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

あと一つだけ報告をさせていただきたいのですが、今ラグビーのワールドカップで日本全国が本当に盛り上がっておりますけれども、いよいよ来年、東京オリンピック・パラリンピックが夏に開催されます。その前に、全都道府県で聖火リレーが行われますけれども、愛知県の聖火リレーに清須市が選ばれて、もう日には決まっておりますが、4月6日、多分夕方近くになると思っておりますけれども、清洲城を出発するという形で行いたいと思っております。できれば清須らしさを出したいなと思っております。委員の皆様方にもぜひご支援をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

簡単ではございますが、冒頭のご挨拶とさせていただきます。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

3 議事 清須市第2次総合計画 後期基本計画（案）について

(後藤企画政策課長)

ありがとうございました。なお、永田市長におかれましては、この後他の公務がございましたので、ここで退席させていただきます。

また、葛谷副市長におかれましては11時20分頃、他の公務により退席させていただきますので、ご了承のほどよろしくお願いいたします。

それでは、ここからの会議の取り回しは野田会長にお願いをしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(野田会長)

皆様おはようございます。

今日が第4回目の総合計画審議会になります。もう一回最後の方でお伝えしますが、事実上、今日の審議が実質的な審議の最後ということになって、次回は答申ということになりますので、これまでどおり活発なご意見をいただきたいと思います。

まず最初に、今日の会議の会議録の署名委員の指名をさせていただきたいと思っております。前回までの会議では堀田委員までご署名をいただいておりますので、名簿の順に河野委員と後藤委員にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

次に、議事に入る前に、次期まち・ひと・しごと創生総合戦略を含めた第2次総合計画の後期基本計画の策定のながれ、全体のながれについて確認をしたいと思っておりますので、事務局から説明をお願いします。

(石附企画政策課主査)

【資料1を説明】

(野田会長)

ありがとうございました。

資料1ですけれども、これについて皆様、何かご意見あるいはご質問等がございましたら受け付けたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

これまでどおりのスケジュールで進んでおりまして、今日は第4回ということで進めております。特に問題ないかなと思っておりますけれども、この資料1に全体像が書かれておりまして、今日ご議論いただいたものが、その後パブリック・コメントの結果も踏まえて第5回の答申という形になりますので、何かもしございましたら、細かい点でも結構でございますので、ご質問なりご意見をいただければと思っておりますが、どうでしょうか。

それでは、この策定のながれについては、これのとおりで進めるということにしたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

「異議なし」の声

どうもありがとうございます。異議なしということで、ありがとうございます。

それでは、具体的な議事に入っていきたいと思っております。

今日も盛りだくさんでございまして、全体の簡単なながれをお伝えしますと、最初に資料2から資料6までの説明があって、満足度調査について審議がなされます。もし時間がうまくいけば休憩を取れるかなと思っておりますが、時間がなければ休憩なしでそのままいかせていただきますけれども、その後に後期基本計画の案について、前半と後半に分けてそれぞれ審議をしてもらおうというふうに考えております。

本日の審議は、清須市第2次総合計画の後期基本計画の案についてということで、資料4にありますとおり、後期基本計画の案を事務局からお示しいただいております。この案によりパブリック・コメントを実施することを予定しております。次回の審議会は、本日の会議で皆様から頂いたご意見と、パブリック・コメントの結果を踏まえた最終の案について市長への答申を行うということになります。冒頭にも申し上げましたとおり、今日の審議が実質的に最後の審議になるということです。

それでは、本日の議事を少しずつ区切って進めていきたいと思いますので、初めに資料について一括して事務局からご説明をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

(石附企画政策課主査)

【資料2～6を説明】

(野田会長)

ありがとうございました。

最初一気に資料の説明をしていただいて、これからの時間は全部審議で、議論していきたいなと思います。

審議は大きく三つに分かれていて、まずはアンケート調査の報告書、主に資料3ですね。その後は資料4の計画について、前半部分と後半部分、そういう審議の進め方でいきたいなと思います。

ちなみに資料3につきまして、この報告書については、明日以降に市のホームページで公表することになっております。皆様からの意見や質問等を踏まえて、より良いものにしていきたいと思いますので、積極的にご意見いただければと思います。

まずは市民満足度調査に関してですけれども、皆様ご意見等がございましたらお願いします。前よりも大分細かくなっております。字で見にくいところもあるかと思いますが、色々なクロス集計を踏まえて、満足度の推移がなぜそうなったのかということを細かく分析してみたということです。分かりにくい部分もあるかと思いますが、どんな点でも結構でございます。ご質問、ご意見等いただければと思います。高山委員、お願いします。

(高山委員)

高山でございます。色々と細かい調査の分析をしていただきまして、ありがとうございます。

どうしても私、こういうものを見ると「どちらともいえない」がどんなふうになっているのかとか、「どちらともいえない」が増えると何か関心が薄れているのかなとか、そんな目で見ってしまうのですね。

計画とは直接関係ないのですけれども、例えば治水対策。9ページを見ていただくと、一番上が治水対策ですけれども、「どちらともいえない」が回を追うごとに何となくじわじわと増えている。その半面、17ページですね、重要度の方は依然、「重要である」という数字が非常に高くなっています。

これを見ていましてふと思ったのが、来年の9月に東海豪雨からちょうど20年だなと思ひまして、一つ意見として、一番最後の実施計画の話にいくのかなとも思

うのですけれども、20年という節目で何かやられたらいいのかなと、そんなことを意見として言わせていただきます。

あと一つ、参考までにお伺いさせていただきたいのですけれども、28ページに職業ごとの集計が出ているわけですが、会社員・団体職員というのが平成28年度の調査で1万5千数百人だったのが、平成30年度の調査では2万人を超えていて、急激な増加になっておりますけれども、それと連動して30ページのところで、比較的にここ数年間に入ってみえた方が何となく増えているのかなという、そんな気がしますけれども、実際に市外から移転して来られた方というのは増えているのかどうか、分かっているならば教えていただきたいと思います。たまたまアンケートでそういう方が多かったという程度なのでしょうか。

(野田会長)

ありがとうございます。1点目は、東海豪雨から20年ということで、この後の実施計画、後期基本計画の中にも関わってきますので、そこでそういう思いで施策提案、あるいは事業提案を進めていただければと思います。

次に、28ページの会社員・団体職員の人数が2万人を超えているということですね。これは第5回の調査よりも今回は回収数が少し増えましたので、人数が増えているということですね。割合でいっても少し増えているというイメージですかね。実数の増え方よりは割合の増え方は、構成比が若干小さくなると思いますけれども、第5回よりは全体の数が今回の方が多いので、会社員・団体職員以外の増えている分を考慮すると、会社員・団体職員の増え方がそのまま増えたということはいえないと思いますが、それでも増えているということですね。これについて何か特徴的な背景みたいなものが、事務局の方で何か思い当たる節はございますでしょうか。

(石附企画政策課主査)

今の高山委員からいただいたご意見ですが、確かに28ページの職業別で見ますと、会社員・団体職員の割合は平成30年度の第6回調査では37%、平成28年度の第5回調査では31%というところで、割合として増加しているというのは確かに見て取れるところでございます。市民満足度調査では、先ほど説明でも申し上げましたように、20歳以上の市民の中から3,000人を無作為に抽出して発送しているところです。ただし、その3,000通の中で回収する年齢層と男性・女性の割合につきましても、住民全体の状況と同じ結果になるように、そこは見込みの回収率を勘案することになりますけれども、そこに近い状況になるように発送数を調整しているところでございます。

ただ、こちら28ページにあります職業別というのは、市の方でも把握して発送しているわけではございませんので、結果として会社員・団体職員の方が増えてい

るという結果になったということでございます。

ただ、回収数が増えている要因としましては、やはり 20 歳代から 50 歳代までの回収数が増えているということがありますので、その世代につきましては会社員・団体職員の方が増えているということはやはりいえるのではないかと考えております。以上でございます。

(野田会長)

私も背景は十分に把握できていませんけれども、とりあえず今のご説明のとおりでいかがでしょうか。

(高山委員)

ありがとうございました。アンケートと実数が直接連動しないことは分かっているのですが、もし実数がそういった方向で増えていくとすると、5 年先の計画とかにもまたそういったところを反映していかないといけないのかなと思ったものですから、聞かせていただきました。ありがとうございました。

(野田会長)

ありがとうございました。

他にいかがでしょうか。山田委員、お願いします。

(山田委員)

山田でございます。個別の話ではなくて、全体のアンケート、満足度調査を何度か実施している中で、「どちらともいえない」がどんどん増えてきていることをどのように理解するか、考えていくのかということが方向性につながるのだと思うのですが、数値を取っていくに当たって、「満足」と「やや満足」を合計して指標として扱っていて、それを母数全体でパーセンテージとして表示している。そうすると、「どちらともいえない」という数字が多くなると相対的に指標は小さくなってしまいますよね。反対に考えれば、「やや不満」と「不満」という方も相対的に小さくなってしまうことになるのではないのでしょうか。

そうすると、「どちらともいえない」という回答を外した母数にして指標を見るというのも、一つ考え方としてあるのではないかと思ったところなのですが、これは統計、こういったものを扱う専門家の方としてはどんなふうに考えられるのでしょうか。

(野田会長)

今のご指摘は本当に的を射ている、非常に重要な話でございます。私も「満足」と「やや満足」を合計したものを全体の割合で見るということは、どうなのかなと

いうことは思ったのですけれども、過去からずっとやってきた経緯がございますので、推移を見るときに合わせて見るということでお伺いしています。

今お話いただいたように、分母のところ「どちらともいえない」を除くというのも一つの手かなと思います。一方で、「どちらともいえない」というのは、意図的に「どちらともいえない」というふうに回答しているという部分を勘案しますと、そこを含めて例えば5点、4点、3点、2点、1点という形で点数化すれば、満足度という形になります。

すみませんが事務局、それもどこかでやられていましたでしょうか。5点満点にしたけれども、若干低くなっているという。

(石附企画政策課主査)

資料3の43ページですね。

(野田会長)

そうですね。43ページは5点満点に全部やり直して、全ての状況がある程度平等に反映される形にしたものなのですね。それでも若干は普通に見るよりは良くなるのですけれども、ただ、それでもやはり前回よりも低くなっているものが多いという結果です。

その理由も、色々と属性を見たりしながら、事務局と色々議論させてもらったのですけれども、私が先にそれを言うと色々な意見が出にくくなるかなと思いましたが、どうかかなと思ったのですが、言ってしまうと、それが絶対的に正しいわけではないのですけれども、前回よりも全般的に落ちている要因を色々見てみたところ、前回の審議会では新しく流入してきた人たち、20代、30代の新しい方々がコミュニティに溶け込めずに不満を抱いているのではないかなという、そういう意見を言ってしまったのですけれども、というのは例えばMR Jの宿舎が出来て新しい世帯が入ってきているということが局地的に起きていましたので。ところが、見てみると40代、50代が割と満足度が低くなっているということでした。

さらに、地域別に見ると、新川とか清洲、要するに名古屋から遠い地域の人たちの満足度が低いということになっているというふうに考えられます。これは要するに、合併する前の地域で長年住んでいる方々、名古屋から遠かった地域の人たちの満足度が低いのですね。

一方で、特定の分野の政策だけの満足度が急に低くなると、明らかにその政策がうまくいっていないという評価ができるのですけれども、全般的に低くなっていて、なおかつ、今事業の内容とか施策の内容とか色々なことをお伺いしている中で、結構一生懸命やっているなというのがありまして、これは外的な要因とか色々なことがあるのかなと考えると、恐らくですけれども事務局と議論した中では、合併に対してものすごく高い期待水準を抱いていた、合併する時には新まちづくり計画

みたいなもので、一体的なまちづくりということを普通言いますので、その時にできる範囲のこと以上に期待されてしまった可能性があるという気がして、いっぱい色々なものを整備して、色々なところに色々なことが出来上がるというような、そういうことを抱いた方が、その期待水準よりは高くないじゃないかということで、しかも年齢が 50 代とかになってくると子育ても一定終わりつつあるタイミングで、子育てに関しても「どちらともいえない」と回答したりとか、そういう形になったのではないかなと予測したところですよ。

今の点も踏まえて、何かご意見等いただければなと思います。他にいかがでしょうか。渡辺委員、お願いします。

(渡辺(康)委員)

渡辺です。30 ページの居住年数のところですけども、ちょっと気になったのが、生まれた時からずっと住んでいる方の満足度が低くなっているところがちょっと気になりまして、私は実際に生まれた時からずっと住んでいるんですけども、合併して市が大きくなったことによって少し不便を感じる部分があるのかなと思います。やはり年代の高い方はさらに自分たちの行動範囲が狭まる分、ちょっと困ったなということが増えているのではないかと推察をします。

そういう方々、前から住んでいる方々がまちに魅力を感じられないというのは、大変重要視をした方が良いのではないかと思います、いかがでしょうか。

(野田会長)

ありがとうございます。今お伝えいただいたことが、まさにその前に私がお伝えしたことの、その背景になっているのではないかなと思います。要するに、合併に対する期待水準というものがすごく高かったのだらうなというふうに思います。

行動範囲は、これは実際にどうなるかということは、生活の行動範囲はそんなに変わらないような気がしますけれども、例えば行政サービスを受ける時の出先の機関が自分の地域から遠くなる可能性、これについてはあり得るのですかね。一応適材適所にある程度決めて、住民票の発行などはほぼコンビニなどのできる形になってきていますし、どうかなという部分はあります。ある程度統廃合していくというのは、これはどこの地域でもそういう形にはするのですね。というのは、同じものが同じようにあるとものすごく非効率になりますので、住民の利用状況を踏まえながら、ある程度のところには集約していくという形では考えられますけれども、何かそういったこと、若しくはそれ以外で行動範囲が変わるような、行政サービスの提供の仕方があり得るのですかね。私は余り思いつかないなと思ったんですけど、どうでしょうか。

(石附企画政策課主査)

そうですね。今会長が言われたとおり、やはり合併して、支所があったのですけれども、そこは少し縮小するような形で、ただ住民票の発行ですとか、そういうものについては各地区で残している部分もございますし、大きくサービスが落ちているということはないような形で、これまで取組を進めているところではございます。

それに加えて、市になったことで、地域間移動のためにコミュニティバスを合併してから動かしております、こちらにつきましても、かなり毎年度利用者数も伸びている状況ですし、使いやすさを少しでも良くしていこうということでやっているところでございます。

(野田会長)

どうでしょうか、渡辺委員。一応そういった形で、我々も一方では行革の委員会の中で取り組んでいる状況ではあるのですが。

(渡辺(康)委員)

色々な方々が、行われているサービスをきちんと把握ができるようなことをしていただければ、なおよろしいのではないかとというふうに感じます。

(野田会長)

ありがとうございます。非常に重要な意見だと思います。しっかりやっても、なかなかちゃんと周知されていないと、満足度の回答、数字に大分影響すると思いますので、きっちりと広報をこれからやっていく段階かなと思います。

財政状況もそこそこ良くて、行革もきっちり進めて、合併に関して新しいまちづくりもどんどん進めていっている中で、それをちゃんと説明していくということですね。それがこれから必要になってくるのではないかなという意見かと思います。

他にどうでしょうか。堀田委員、お願いします。

(堀田委員)

私は後期高齢者の仲間なのですが、清須で生まれて不満かと言ったら、どちらかというと満足が減る方です。行政サービスが今はブロック制になっているのですね、字が三つか四つ集まって。これによってすごく高齢者は、自分たちの仲間意識というのがものすごく薄れてきてしまっているのです。今まで字でやってきた行事をブロックでやるようになったということで、すごく親近感が薄れてきているのですね。お年寄りの人たちの満足度が減っている一つの原因として、僕も75歳で後期高齢者の入口に入っていますけれども、この間までブロックの会長もやっております、それを感じます。私はそれが一つの原因だと思います。

行政のサービスも、本当はこんなことは市がやることだろうということを、プロ

ックにぶつけてきていることが一杯あるのです。そういう不満もかなりあると思います。

じゃあ合併が良かったか悪かったかとなると、個人の感情論で言ったら合併しない方が良かったのですけれども、財政的にはそれが許されないので合併してきたということは十分理解しているのですが、感情的にはそういうものがあります。そういうことも一つは原因の中にあると思います。以上です。

(野田会長)

ありがとうございます。満足度は70代の方も落ちているのですかね。特に50代かなという気がしたのですが。26 ページを見ると、ちょっと落ちているのですかね。どうしても期待水準というのは高まってしまいますので、それに対するよほど自分の期待に応える良いものを提供しないと満足度は低くなってしまいますから、逆に言うと全く関心がない状況で、ぽんと何かびっくりするようなことをやられると非常に満足度が高くなったりしますので、ずっとこれまで一生懸命やってきた中で、まちづくりを進めていく過程で、市民との対話ということが今後また新たに重要になってくるという、非常に生産的な課題かなという気はします。

今おっしゃられたように、字単位でやっていたものをブロック単位でということもあると思いますので、それをじゃあ字単位に戻すべきだろうかという議論は、これは高齢者との対話というよりは、若い人との対話も含めて議論していくべきだと思いますし、そういうことも全部含めてブロック単位はどうかということですね。

全国的なながれとして、行政が何でもやり過ぎだという話がありますので、一方で市民協働みたいなものが必要だということになってくる中での、一つの地域での戸惑いかなという気もしますので、ある程度過渡期かなという気もしますが、どちらにしても行政職員の方と住民との対話みたいなものは、やはりもう少しこれから一生懸命やっていくべきだなという気はします。貴重な意見としてお伺いしたいなと思います。ありがとうございます。

他にどうでしょうか。前田委員、お願いします。

(前田委員)

前田でございます。満足度で色々見させていただいた中で、私は公共交通の関係で委員として選ばれてきておりますので、どちらかという総合計画の話の中で、公共交通についてどういう考えを持ったら良いのだろうかという考えで申し上げたいと思います。

資料の43 ページ、20 番目の公共交通の充実についての満足度で、0.08 ポイント減っているというような状況でございます。そういった中で、35 ページの「あしがるバス」を利用したことがあるかということで16%。その中でさらに、21 ページでございますけれども、公共交通に関しては必要性が高まっているということが、

この図表でも分かります。そしてまた、施策の重要度についても、公共交通は「重要である」が 35.5%、「やや重要である」が 33.0%、「どちらともいえない」が 21.8%で、公共交通というのは市としては大変重要であるということを思っております。

しかし、先ほど言いましたように、満足度についてはやはり「あしがるバス」の増便とか、そしてまたルートも、今公共交通会議でも色々議題として取り上げられております。そういった中で、35 ページの「あしがるバス」を利用したことがある方の割合が 16%。これにつきまして、私も先ほど堀田商工会長が言われましたように 76 歳になります。私どもが 20 歳前後の昭和 30 年くらいに、今後は車社会になるのだぞということで、私も昭和 40 年当時から就職して、私はまだ少ない中で車通勤をさせていただいておりました。そんな頃はまだ路上駐車も OK という時代でございました。そして、その中でずっと皆様方も昭和 40 年くらいから平成の初めまで通勤される年齢でございました。その頃の年齢がまだ 25 歳か 30 歳くらいであったのが、ちょうど令和元年、令和 2 年頃になってきますと、ちょうど 80 歳くらいの年になります。

今までは車を能動的に運転して利用していくという、そういう時代でした。しかし、私自身も今後は、今度は受動的に車に乗せていただいて、利用させていただくということで、昔みたいなイメージで家族が多い時代は良かったです。でも今は、核家族化で息子さん、娘さんも全部嫁いで、親と一緒に生活することがなくなったということは、緊急の時の交通の便がなくなってきたということで、「あしがるバス」、公共交通については、清須を含めてどこでもそうですけれども、私は今後 50 年か 60 年の最初のサイクルに入ってきたという認識なのです。ですから、これからはやはり、5 年、10 年先、もっともっと「利用したことがある」という年齢層というか、パーセントが増えてくるという認識でございます。

今後ますます公共交通に関しては市の方も改善が必要で、これからも重要度が高まっていくという時代になっていくと思いますので、ぜひ公共交通に関しては力を入れていっていただきたいということで発言をさせていただきました。以上です。

(野田会長)

ありがとうございます。分かりやすい説明でしたね。利用者数がこれから増えることが予想されるということですね。そうすると、満足度の分析の結果も変わってくるということが予想されるということですので、これ自体の評価は、もう少しタイムスパンをちょっと長くしながら検討していくということが必要になってくるということだと思います。ありがとうございます。

もうちょっとどうでしょうか。前田委員がおっしゃられたように、満足度について、また後で計画の中で議論しようかと思ったのですが、1 回の満足度の結果で云々というよりは、一応何回か取っています。毎回、回答している人たちの構成が違ったりとかしますので、やはりジグザグしたりとか、あるいは外的な要因で、も

のすごく話題になっているものに対する注目度が高くなってしまって、それに引っぱられて満足度が変わる、いきなり落ちたり高くなったりとかします。ですので、ある程度時系列で見ていくということが重要かなというふうに思います。

今回は、前回よりちょっと落ちているという部分はあるのですが、今まさに評価していただいたように、もう少し長く見る必要があるとか、いくつかのポイントと合わせて見るということになってくるのかなと思います。

何かもしあればと思いますけれども、よろしいでしょうか。水谷副会長、お願いします。

(水谷副会長)

すみません。例えば 30 ページなののですが、内容とちょっと違うのですが、表記方法について、30 ページの表の左側の項目欄ですね。私眼鏡を新調したのですが、眼鏡をかけても見えない字があって、ちょっとがっかりしているところなのですが、どこかに文章中に表現するとか、どこか別の欄に大きく書くとか、どんなことが書かれているかが読めるようになっていてありがたいかなと思っております。

(野田会長)

そうですね。いくつかそういった点はあると思います。場合によっては次のページにかかっても構わないと思いますので、見やすさはもう少し改善してもらえればなというふうに思います。

他にどうでしょうか。パソコンで見た時には拡大処理ができますが、これではできませんのでね。しかも、そのままダウンロードしてプリントアウトすると小さいままになりますから、少し改善できるところは改善してもらいたいなと思います。

もし何かあればと思いますが、よろしいでしょうか。

(水谷副会長)

内容の方に戻りますけれども、先ほどアンケート調査の中で「どちらともいえない」の扱いについて議論されたかと思えます。

私も非常に興味がありまして、こういったものは客観的に数値を把握するというのももちろん大事なのですが、なぜそういうふうな回答になったのかという部分を考えていけるアンケート調査になっていると良いかなというふうに思っております。

そこで「どちらともいえない」と答えた人がなぜそう答えたのか考えると、例えば項目ごとに違うと思いますが、子育てに満足しているかみたいな話は、子育て層ではない方については、そもそも関心がないという状況だと思います。ですので、

一旦関心があるかないかということを知ると、関心がある中で対象の方々、子育てしている方々で満足しているのか満足していないのかというところを知ると、満足度としては割と正しい数字が出てくるのではないかなというふうに思っております。

関心がない人が多い、例えば公共交通なんかはみんなが関係してくるものなのに、関心がない人が多いということが分かったとすると、そこ自体が問題になってくるので、関心を持ってもらえるような手を打つ必要があるということが見えてくると思います。

ですので、今後また改善する機会があれば、いきなり満足度を聞くのではなく、そもそもこの項目について、例えば学校教育について、子育てについて、公共交通について、それぞれについて関心がありますかというところを聞かれたらどうかなというふうに思いますので、意見を言わせていただきました。

(野田会長)

ありがとうございます。アンケートの分量の問題もありますが、そういった形で改善できるところをご検討いただければと思います。

今のお話で、一つだけ私からもお伝えさせていただきます。推測の域を越えないので申し訳ないですけれども、細かく見ていくとそれまで「満足」や「やや満足」と回答していた人が、特に昔から住んでみえる人たちも含めて、「どちらともいえない」というふうにシフトしている部分が何となく読み取れたのですけれども、本当に腹が立っていたら「不満」とかいう形に書くところを、「どちらともいえない」くらいのところにシフトしているということが、昔から住んでみえる人たちは自分たちがオーナーで、自分たちが市の中心人物であり、昔から市を担っているのだという意識があって、でもこれからもっともっと頑張ってもらいたいという意味の現れなのかなという印象で、本当に行政に腹が立っているということであれば、「不満」というところにシフトするのが、「どちらともいえない」となっているので、そういう意味でも市民との対話とか広報というのは新たな重要な課題かなという気がします。

もし何かあればと思いますが、よろしいですか。一応、次の議題に入っていきますけれども、若干戻ってという形にしてもらっても結構かと思います。

時間の都合上、休憩をせずに進めたいなと思いますけれども、よろしいですか。今日は最後なので、きっちり議論したいなと思いますので、すみませんが続けてやらせていただきます。

そうしましたら、市民満足度調査の報告書については、一部見やすいようにするところなどがありますけれども、そういったことを改善できればこのとおりで、この後ホームページで公表するというところでよろしいでしょうか。

「異議なし」の声

(野田会長)

ありがとうございます。

そうしましたら、続いての議題では資料4の基本計画の前半部分、前半部分は51ページまでで議論いただければなと思います。52ページからの後半部分は具体的な施策になっていきます。

1ページから36ページまでは現状と今後の見通し、37ページが土地利用方針ですね。残りの39ページから51ページが「まち・ひと・しごと創生総合戦略2020」になっています。どのポイントでも結構です。何かご意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。

(高山委員)

高山でございます。恐らく記載ミスかなと思われるのが45ページのグラフのタイトルですけれども、「事業所数（公務を除く）の推移」となっていますが、「従業者数の」が抜けているのではないかと思います。いかがでしょうか。

(野田会長)

上のコメントにも「従業者数は」と書いてありますので、事業所数ではなく従業者数の推移ですかね。事業所数を従業者数に変えれば、一応全産業の従業者数なので、一定規模の人数以上の事業所の従業者数になると思いますが、これは事務局、どうですかね。

(石附企画政策課主査)

すみません、高山委員のおっしゃるとおりで、45ページの表は従業者数の推移になります。グラフのタイトルに「従業者数」を追加させていただきますのでお願いします。

(野田会長)

要するにグラフのタイトルを「事業所（公務を除く）の従業者数の推移」というふうに変えるということですか。

(石附企画政策課主査)

そうですね。

(野田会長)

分かりました。それでは、そういう形で修正をお願いします。ありがとうございます

ます。

他にどうでしょうか。どんな点でも結構です。

(高山委員)

何度もすいません。高山でございます。確認ですけれども、41 ページの「総人口・年齢3区分別人口構成比の見通し」のグラフですが、「再掲」としてあります。多分4 ページの下のグラフと5 ページのグラフをくっつけたということですが、素案の時にはコーホート要因法云々ということが注釈に書いてあったのですけれども、ここは再掲だから削ったということではよろしいでしょうか。

それと同様に42 ページのグラフですが、これは再掲ではないような気がしまして、ここも前の資料では注釈にコーホート要因法云々と書いてあったのですけれども、ここも削ってしまって良いのかなというちょっと素朴な疑問でございます。

(野田会長)

41 ページと42 ページですね。この再掲の元は、この同じ資料4 の前半に出てくるところからの再掲でしょうか。いかがでしょうか。

(石附企画政策課主査)

今の高山委員からのご質問でございますが、素案の段階ではコーホート要因法により推計しているという注釈を記載していたのですけれども、委員が言われましたように4 ページ、5 ページの前提条件により推計しているということでございますので、同じ数字を使っているということで「再掲」としてあります。

また、42 ページの「20 歳代～40 歳代の人口の見通し」につきましては、この内数になっておりますので、4 ページ、5 ページの前提条件により算出したものの内数であるとか、少し分かるような記載をさせていただけたらと思いますけれども、よろしいでしょうか。

(野田会長)

これは、「再掲」という場合は全く同じものを載せますので、再掲ではないですね。ですので、やはり41 ページの下にも4 ページ、5 ページの文であるとか、そういったコメントで対応すべきかなという気がしますね。

42 ページの方は、注釈を入れるということですかね。そういうことでご対応いただけますでしょうか。

(石附企画政策課主査)

そうですね。そのような形で対応させていただければと思います。

(野田会長)

高山委員、いかがでしょうか。そういう形で分かるようにしたいと思います。

(高山委員)

ありがとうございます。ご対応お願いいたします。

(野田会長)

他にどうでしょうか。水谷副会長、お願いします。

(水谷副会長)

8ページの浸水被害の発生件数のグラフですけれども、もっと前に気がつけば良かったのかもしれませんが、大規模な豪雨による被害というふうに出ているのが2013年、2016年とあるのですが、このグラフは10年くらいのスパンで見たもので、ここだけ見ると3、4年に1回、浸水被害が出ているのかなというふうに見えるのですけれども、これはどうなのでしょう、過去から遡るとこの40、50年くらいで見るとこの10年くらいに多発しているのか、それともこれくらいの3、4年に1回被害が出るという、そういうふうな傾向にあるのでしょうか。特に昨今、気候変動が言われていて局所的な豪雨というのが増えてくる可能性があるとなると、ちょっとこのグラフは大事かなというふうに改めて今思ったところなのですが、いかがでしょうか。

(野田会長)

これはどうでしょうか。私も近年起きているようなイメージはするのですけれども、過去からの状況はどうでしょうか。

(石附企画政策課主査)

グラフにつきましてはおっしゃるとおり10年で取っているところですが、すみません、今私の手元に2005年からしかデータはないのですけれども、2005年、2006年、2007年はゼロ、2008年につきましては床下が18件、床上が5件というような状況になっておりまして、ではそのサイクルがどうかと言われると、少し難しいところがあるのかなと思います。

(野田会長)

よろしいですか。

(水谷副会長)

ありがとうございます。

(石附企画政策課主査)

先ほど高山委員からご発言がありました東海豪雨が 2000 年でございますので、その被害件数を出すと桁が違うような形にはなってしまいます。

(水谷副会長)

ありがとうございます。そうしますとやはり 4、5 年くらいに 1 回、それなりの被害が生じているというふうな見方が良いのかなというふうに思いますけれども、そうなりますとやはり非常に安全・安心が求められるところかなと思いますので、改めて。

(時田委員)

3 年に一回ずつ起きるということではないでしょう。今までに雨が降って被害があった件数を、この 10 年の間で過去にあったデータを書いたというだけでしょう。

(石附企画政策課主査)

そうです。はい。

(時田委員)

単純に 3 年に一回起きていうわけではなく、台風とか大雨が多い時期になれば、こういう被害が出るということでしょう。違いますでしょうか。

(石附企画政策課主査)

実際に件数として、報告があった件数を挙げているということです。

(水谷副会長)

ありがとうございます。傾向として 3 年、4 年、5 年くらいに 1 回はこういう災害が起り得るといふ予測ができそうなグラフかなと思います。

(後藤企画政策課長)

すいません。先ほど時田委員からありましたように、まずこのグラフの見方としては実際の件数ですので、たまたま 3 年に 1 回は被害件数が出ているということになります。

昨今、やはり台風の被害よりもこの辺りはゲリラ豪雨の被害が非常に大きくて、2016 年の 8 月 2 日を一つ例に挙げますと、8 月 1 日、その前日ですね。前日にも同じような豪雨がありまして、8 月 1 日の時は落雷がひどくて、実は近くの新川病院に落雷があって、病院の機能が麻痺したということがありました。その後 8 月 2

日にもまた同じような時間帯で、同じような豪雨がありまして、その時は床下の浸水被害を受けたところが多かったということです。

現実に3年に1回のサイクルというよりも、水の脅威というかゲリラ豪雨の脅威というのは、昨今毎年ございます。幸いここ2、3年は、清須市近辺ではそのような豪雨がなかったというような話でございまして、一昨年になりますかね、犬山辺りで記録的短時間大雨情報とかが出ていますので、3年というサイクルではなく、やはり毎年そういう危険性はあるのですけれども、清須市内での被害がたまたま3年に1回あったというような記録でございまして、そういう見方をさせていただくしかないのかなというふうに考えています。

(野田会長)

ありがとうございます。どうしても予測できることではないので、なかなかサイクルとかいう形にはならないのだと思いますけれども、毎年起こり得る確率があるという、確率の有無でいえばそういうことがあるという話ですね。

他にいかがでしょうか。飯田委員、お願いします。

(飯田委員)

細かい質問で申し訳ないですけれども、質問というより要望です。

「あしがるバス」の利用者数が7万人弱ということで、年々利用者が増加しています。これは非常に喜ばしいことだと思うのですが、相当数の車両等を用いて予算化をされておりますが、乗車率をここに、少し細かい話ですけれども記入していただきますと、これは無駄だなとか、あるいは必要性が大きいなとか、より鮮明になるのではないかなと思うのですけれども、いかがでしょうか。

(野田会長)

17 ページですね。乗車率とかは取っているのですかね。多分ここには一定の数量的なことが書かれていますけれども、どうでしょうか。乗車率というのは、空で走らせていない率ということですかね。要するに、本来これくらい見込まれるけれども、席数があって空席が何パーセントかということが分かるような、どれくらいの感じで走っているかということが分かるデータはありますでしょうか。

(石附企画政策課主査)

バスの総利用者数をこちらの推移に載せているところですが、今前田委員もいらっしゃいますが、公共交通の会議におきましては1便当たりの乗車人数、1便に何人お客様が乗ってみえるかという指標がありますので、そういった指標は経年で取っておりますので、そういう指標でよろしければ掲載することは可能かなと思います。

(野田会長)

実際に書くかどうかというのはそのデータを見ながらですね。この前の満足度の調査のところでもご意見いただきましたけれども、それを経年で追っていけば利用率が上がっているということも確実に言えますので、それと満足度を見ながらという分析もできると思います。非常に重要な指標かなと思います。飯田委員、今の形で進めていただいてよろしいですかね。

(飯田委員)

結構です。

(野田会長)

他にどうでしょうか。何でも結構です。ふと思いついたことでも何でも。高山委員、お願いします。

(高山委員)

グラフの表記とかそういったことではないのですが、9ページの上に「侵入盗〔住宅対象〕認知件数」のグラフがあるのですが、警察庁のホームページを見ましたら、全国の侵入窃盗認知件数の推移、またそのうち住宅対象の件数のグラフが上がっておりまして、2009年から毎年徐々に減っていくだけで、2009年と比べて2018年は半分以下に減っているというグラフがございました。

清須市では、単純に出だしの2009年と2018年を比べると、半分以下にはなっていないし、それが多いか少ないかは別として、途中で131件とか132件があって、連続窃盗とかそういうことがあったのかなとか、そんな推測をさせていただきますけれども、もし分かっていたら教えていただきたいです。

(野田会長)

なかなかピンポイントで、すぐには分からないかもしれませんが、何か分かる部分がありましたら。恐らく近年の2014年くらいから、何となく現場の方もしくは統計データを取っている方は、近年割と減ってきているなという感覚にはなっていると思いますが、ちょっと広げてみると結構ジグザグしている時期があったということですね。この背景みたいなものがもしあればということなのですが、すぐ分かりますでしょうか。

(後藤企画政策課長)

すみません、私の方から説明をさせていただきます。住宅対象の侵入盗の件数でございますので、実際には全国平均と清須市の数値はなかなか合致しないところがあ

ります。清須市というところは、言い方は悪いのですけれども、泥棒に狙われやすい地域性があるということがございます。

というのは、高速道路網が発達している、それから道路網、いわゆる国道・県道の道路網が発達しているということがありまして、遠くからでも割と狙われやすい地域にあるというのは、今も変わらないところでございます。

それで、2013年に大きく増えた理由というのは正直なところ分らないです。正直に言ってそういう窃盗団に狙われていた時期があったのかなということが、確か西枇杷島警察署の分析の中ではあったと思います。

やはり近年、侵入盗が減ってきているというのは、皆様方の防犯対策、いわゆる防犯カメラですとか、そういうものの設置が急速に普及してきたということがありまして、清須市内の窃盗件数としては随分減っております。ただ、相変わらず県の平均の中では、清須市というのは残念ながら高い推移を示しているというのは、未だ変わっていないということになります。

住宅侵入盗については、グラフにも顕著に出ているのですけれども、現状では右肩下がりになっているのは事実でございますので、これは行政だけではなくて、皆様方の啓蒙、啓発ですとか、カメラの設置等にご協力をいただいた効果であったと我々の方では分析をしております。以上でございます。

(野田会長)

ありがとうございます。高山委員、いかがですか。

(高山委員)

ありがとうございます。

(野田会長)

他にどうでしょうか。何でも結構です。前田委員、お願いします。

(前田委員)

前田でございます。別に問題ではないのですけれども、私の認識不足というのですかね。委員さんたち、やってみえる方は特に問題ないと思われると思いますが、素人から見ると、4ページの上に産業別の表があります。

上の説明の中では第二次、第三次の産業ということが書いてありますけれども、第一次はここまではっきり書いていなくて、それは何だろうなと思いましたが、総合計画書を見た時に、その辺りのところの説明がどうなのかなと思います。

「製造業を中心とする第二次産業の就業人口割合はこれまで減少傾向」と書いてあって、第二次、第三次の表示はあるのですけれども、やはり第一次の表示をしていった方が良いのではないかなと思います。それとも、「第一次産業を除いて」とい

うような、そういう表現をして第一次、第二次、第三次の表現をしていったら良いのではないかと思います。

それから、人口の今後の見通しですね。今後も総人口は上振れすることが見込まれますというのだけれども、その上振れということは、例えば2ページを見ると、その真ん中辺りに、「2017年（平成29年）は大規模な社宅の建設により大きく増加しています」という、具体的な一つの内容が書いてありますけれども、4ページの今後の総人口のところで、例えば要因とか、特に市として何かやることで上振れする見込みがありますというような表現ができればどうなのかなということで、お伺いしたいと思います。以上です。

（野田会長）

ありがとうございます。同じく4ページで2点ですね。

1点目は、上の図表において、文章中では使っていないのですが、第一次産業が農林漁業、農業などの第一次産業とか書ける場所があれば書いていただくということですね。文章には書いていないので、どうするのかもう一回検討してもらえればなと思います。必ず修正しなければならないというわけではありませんので、ここは対応できるのであれば対応してもらっても良いと思いますし、そのことによって行間が変わったりとかしますから、その部分も踏まえてですね。

後半は、これはいかがでしょうか。上振れすることに関わるその背景みたいなことは何か書けるのでしょうか。書けるのであれば、ここは文言を入れてもそんなに次のページになったりとかはしないかなと思うのですけれども。

（石附企画政策課主査）

今前田委員からいただいたご意見のうち、人口の今後の見通しにつきましてですが、こちらは2015年の実績値を基にした人口推計でございますので、どういう要因かというのは、右側の5ページでございます人口推計の手法を使って推計したとしか言えない状況でございます。

委員が言われたとおり、2ページでございます三菱社宅のような要因がありまして、その結果2020年の人口数は確実に大きく上振れするということが見込まれておりますので、その状況を勘案して社会移動率を設定しているということを5ページに書かせていただいております、そちらを見ていただくというところでございます。

（野田会長）

要するに、以前に推計した時よりも今回の推計の方がより新しい、実質に基づくデータを使っているの、それが以前の推計値よりも少し多かったということですね。それをベースにしているの、上振れするということですね。何かもっとすごい

要因があって上振れというよりは、より正しくなったという概念で、そういう意味からすると、これ以上は書きにくいかなという部分はありますね。分かりました。

他にどうでしょうか。山田委員、お願いします。

(山田委員)

7ページの地価動向ですが、事務局からの説明で春日町の地価公示の場所が変わったよという話がありました。基本になる公示の地、場所が変更になったために指数が下がりましたという、口頭でお話していただいたと思うので、そのことも書いていただいた方がよろしいのではないかと思います。

(野田会長)

2014年、2015年のところですかね。これは書けますよね。

(石附企画政策課主査)

そうですね。こちらにつきましては、先ほどの8ページと同じような形で、追記という形で対応させていただくことは可能かと思います。

(野田会長)

ありがとうございます。

他にどうでしょうか。高山委員、お願いします。

(高山委員)

高山でございます。細かいところですけども、47ページのグラフですけども、上の3行ある説明文のところ、「60歳代以降は参加している方が多くなっています」という文章の「。」がないです。また、「多くなっています」と言い切ってしまうのですけれども、60歳代の女性のところはそうではないものですから、言い切っているものなのかなと思いました。「参加している方が比較的多くなっています」とか、皆様それぞれご意見もあろうかと思いますが、何か加えておいた方がいいのではないかなと思います。

それともう1個、気になるのがこのグラフで「男」「女」という書き方をしているのですけれども、他のグラフだと、例えば1ページのグラフでは「男性」「女性」という書き方をしているので、何となく違和感があるなと思います。書けるなら「男性」「女性」とちゃんと書いていただいたほうが良いのかなという気がいたします。

(野田会長)

ありがとうございます。今のは二つとも対応はできるとお思いますので、よろしくお願いします。

他にどうでしょうか。よろしいでしょうか。

ある程度出尽くしている部分はあるかと思いますが、どうしてもという場合はまた後で言うてもらっても結構かと思いますが、大きな、根本的にここは駄目だとかいうところはなかったかと思いますが、ある程度異議があるかどうかということについてはご確認できたかと思います。

一応、今ご指摘いただいたところについて、修正できるところは修正して、検討すべきところは検討していくということにしたいと思います。

こういう形で進めるということにしたいと思いますが、皆様よろしいでしょうか。

「異議なし」の声

(野田会長)

ありがとうございました。

そうしましたら、5分だけ休憩させてもらってもいいですか。5分だけ休憩しましょう。10分から再開するというところでお願いします。

【休憩】

(野田会長)

そうしましたら、続いて議事の三つ目を進めたいなと思います。

後期基本計画の後半、資料4の52ページ以降になります。57ページからはそれぞれの施策について掲げられているところがございます。それで最後の134ページ、135ページについては行政運営マネジメント、先ほど議論いただいた満足度をベースに議論していただくということになっています。

さらに、明後日からこの後期基本計画について、パブリック・コメントを実施するということになっています。

ご意見を今からいただくのですけれども、少しだけ私の方から、事務局から相談を受けた点について、私の考えるところを先に紹介させていただきたいなと思っております。

一つは、満足度の目標値をどうしていくのかということですね。資料4の53ページに、ページをめくっていただかなくても結構ですけれども、目指す姿にどこまで近づけているか、それを測定するための指標として達成度指標というものを置いています。この達成度指標は原則として、実現すべき成果にかかる数値目標、数でお示しするということになっています。

その達成度指標の目標ですね、これをどうするかということになります。市民満足度調査における満足度は、「満足」と「やや満足」と回答した人の割合としていま

すが、もちろん先ほど山田委員からもご意見いただいたような形にすることもできますし、満足度という5点尺度みたいな形にすることもできます。この市民満足度調査における満足度は、計画期間中の上昇を目指すということになっております。

平成30年度の市民満足度調査では、その前の平成28年度の調査と比較して、4つの施策で増加はしたのですが、大半、33施策で減少という結果になりました。その要因については、先ほど皆様と一緒に議論させていただいたとおりで、古くから住んでいる方が特に不満と思っている、年齢も50代の方が多いというようなことも分かっております。

この間、市議会議員の方から、後期基本計画では平成30年度の調査時からの増加を目指すのではなくて、要するに今回の満足度の数値を目標値にするのではなくて、その前の高い状態の数値を目標にすべきだという意見がございました。平成28年度の調査の数値よりも増加したかどうかということを目指すべきだということですね。今回この計画を策定して以降、色々な取組を行った上で満足度調査を実施するのですが、この満足度が達成したかどうかというのは、直近ではなくて前の高かった状態のものを目標値にすべきだという意見が出ました。

私自身は、細かく分析していたこと、先ほどの件ですね。恐らく合併に対して高い期待水準を持っていた方が結構たくさんいたのだろうということも踏まえて、細かく見ていって、なおかつ業務の状況とかを見ていくと、直近のデータ、すなわち平成30年度、要するに今年の頭に行われた調査時のデータを目標値にすることで進めることが望ましいのではないかなと思っています。

途中でも色々な意見をいただきましたけれども、あくまで満足度は時系列でずっと見ていくものですから、目標値1個だけを見て高いかどうかということだけではなくて、分析の時には長いスパンでどうなっているのかということを見ますので、どこを目標値にしてどうだったのかということは、振り返って一応見るができるようにはなっているのですね。

さらに、目標値をどう捉えるのかということなのではけれども、目標の捉え方は、絶対にそれを守らなければならない、例えばスピード違反みたいな目標値、これを限界値というのですけれども、今回はそれではないですね。

一方で、充足値、ある程度これくらいは達成しておきたいなという、それが今回かなと思います。さらには、期待値、これくらいいけばいいなというのが期待値になると思います。期待値でいけばという考え方からすれば、達成しなくてもそんなにものすごく批判されるものではないというふうにも解釈できるのですが、かなり高い水準のものを設定しても良いかなと思うのですが、今回はこれくらいは達成しておこう、達成すべきだと思われる充足値ですね。

そういう観点からいくとやはり直近くらいのデータにしておいて、もちろんそれだけをやるのではなくて、それ以上をもちろん目指していただくのですけれども、ある程度評価をする時には、今回のデータを基にしながら評価をしていただくとい

うのが良いのではないかなというふうに思っております。

というようなことを議会の方からのご指摘も踏まえた上で、事務局と私の方で議論させていただいたのですけれども、そのことについても皆様からご意見をいただきたいのですが、先に水谷副会長からよろしくお願いいたします。

(水谷副会長)

ありがとうございます。満足度の目標値としての捉え方について、今野田先生がおっしゃってくださったように、満足度は客観的に捉える数値というふうな意味合いだと思います。

この目標値をどういうふうに設定すれば良いのかというと、色々な考え方があって、過去の実績と比較して、過去より良くなろうという目標値もあれば、この清須市内ではベストな値として、過去にこういうものがあるから、もしくは違う部署でこういうものがあるから、違う取組で満足度40%を達成したことがあるからというように、ベストな値と比較してどうかとか、他の自治体が満足度50%を目指しているから清須市も50%を目指そうとか、それから、今回のようにあるべき姿、こういうところを目指そうということで、あるべき姿、ありたい姿と比較して満足度を設定する、目標値を設定するなど、色々な設定の仕方があるということだと思います。

それで今回どうするかということなのですが、そもそも目指す姿として、市民の満足度、何パーセントを目指しますか。それだったら良い、何パーセントであれば良しとしますか。例えば満足度が80%、90%であれば良しとするという考え方もあるのですね。そうすると、20%、30%、40%というのは似たようなもので、いかに90%にするかということを考えなくてははいけませんし、では50%、60%くらいにするのかとか、それは本当に考え方で、何のための指標なのかということ、数値目標をいきなり議論する前にやはり押さえておく必要があるのではないのでしょうか。何のための指標なのか。客観的に状況、意向等を把握するためなのですから、それがどういう状態であれば良いと清須市は考えるのか。考え続けていくということが大事かなというふうに思っております。

もう一つだけお願いします。では、その満足度というのはどういうふうに測るのかというと、統計的な方法で、全体、皆様に満足度を聞いて、それぞれ「私はこう思う」ということで、全体で集計して満足度を出す方法もあるのですけれども、満足度って一人ひとりの考え、認知とか考え方、意思決定、頭の中で、体全体で満足だというふうないうものですから、そこがどういうメカニズムになっているのか。例えば料金が安ければ満足なのか、子育て支援政策がすごく充実しているから満足なのかというふうに、一人ひとりが満足度の考え方って違うのですよね。

ですから、厳密に言えば満足度を適切に計測することはすごく難しいし、恐らく無理なのです。日々変わっていくものなので。一人ひとり日々変わっていくものの集計結果ということなので、極めてあやふやなものでもあるということかと思ひ

ます。

ですので、あやふやでもある指標であることを前提に、色々な見方があるということも前提に、では清須市ではどうしていったら良いのか、どういうところを目指していくのか。それを考え続けることが大事なのではないかというのが私の結論なのですが、ということなので、どちらにするというよりも、まだまだ改善の余地はあり、見直していくという行為が大事なのではないかという意味では、一旦これでおいて進めていっても良いのではないかなというふうに思っています。

(野田会長)

ありがとうございます。二人から押し付けるわけではないのですが、とりあえず最初に議論したということをご紹介させていただきました。

細かな施策の意見ももちろんこの後にお受けするのですが、先に目標値の決め方、直近の値、要するに今回の調査値よりは上であることを目標値にすると、そういう形にしたいなと思うのですが、いかがでしょうか。

(山田委員)

調査自体の指数をどうするかというのはまた別として、前回、今回で指標を取ってきて、個々の施策について、一部では上昇しているものの中にはあったり、横移動しているものもある。多くの場合は下振れしている状態にある。これを認識した上で、今後それが更に下振れしない方向性を目標としていかないと、施策としては進まないと思うのですよね。急になかったことにして前の目標値でやろうとか、そもそも足元が揺らいでしまいますので、今来ている状況、右肩下がりになっているのか、横移動しているのか、はっきり認識した上で、次の目標値を設定しないと当然上昇は得られませんので、会長が言われたとおりの形の方が、僕はよろしいかと思います。

(野田会長)

ありがとうございます。

他にどうでしょうか。加藤委員、お願いします。

(加藤委員)

観光の方でちょっとお話ししますが、清洲城の入場者数はこの3年くらいの間に減ってきました。一番多かった時ですと、清洲城のリニューアルの時、それから大河ドラマのドラマ館を作った時、その時は大きく上がりました。

その後、清須市みたいな小さなまちですと予算がないです。展示物は皆そのままの状態なので、そうすると、はっきり言いましてリピート客は来ないです。それを、過去の最高のところを目標に持ってこられたら、担当する人たちにとっては

かわいそうだなという気がします。

私の観光の考え方というのは、経済効果だけを考えていたら駄目だと思います。要するに、ここに住んでいる人たちが、幸福に、平和に、安心して過ごせる、そういうまち。シビックプライドを持ってもらう。そのための道具だというふうに考えてもらわないと、観光というのはこれから何をやっても失敗していけらうと私は考えます。

今、展示物が同じだと言いました。美術館の方では、毎月くらい、色々な題材を変えてやっておられます。それでも観覧者はあれくらいの人数しかいないです。それをお金がないのに、あれをやれ、これをやれと言われて、担当者の方が非常に困るだろうなというふうに感じます。

清須市自体、展示ができるようなものは非常に少ないです。ですけれども、借りることはできます。借りるためには、所有者が安心して貸し出してくれるような、そういう展示ケースですね。それを少なくとも揃えていくべきだろうなと思います。借り物でもいいから変えていくという、そういうやり方をしていけないことには無理だと思います。

最初からお店がない、休憩する所がない、そんなものはできっこないです。商売にならないですから、お店屋さんは皆潰れてしまいます。市としては、今の段階でできるだけの入場者数を増やしていく、それをやっていかないと駄目だろうなと、そんなふうに感じています。

(野田会長)

ありがとうございます。平成 28 年度と比べてというよりは、とりあえず直近をということで、これは一応計画の総括に関わるところで、後期基本計画が終わった時にちゃんとできているかどうかということの基準を、その前の、直近の満足度と比べてどうかということで大体の総括をします。ただ、もちろんその分析の時に、その前と比べてどうだったかということももちろん議論しますので、どこに目標値があっても、過去からの時系列では一応見ていることになります。ただ、総括してしまうので、目標値がより高いところになると、駄目じゃないかということで、どんどん卑屈になっていくというよりは、最低限ここまでちゃんとやってくれたと、後はもっと、より高い目標を目指してもらおうという形で常に計画を改定していくという形を目指せばというふうに思っています。

ということで、もしご意見があればお受けしたいと思いますが、直近をということで、審議会ではそういうふうに考えるということでもよろしいでしょうか。

「異議なし」の声

(野田会長)

ありがとうございます。そうしましたら、個別のことについて、何でも結構でございます。ご意見いただければと思います。どうでしょうか。福田委員、お願いします。

(福田委員)

施策の展開のところで、要望とか意見でもよろしいでしょうか。

(野田会長)

もちろんです。

(福田委員)

3点ほどお願いしたいのですが、まず、81 ページの施策の展開の5番「ボランティア活動への支援」というところなのですが、今割と会員の方から出ている声なのですが、「あしがるバス」の話も出ていましたが、ボランティアを1時間やったら、そこのやったところで何か証明みたいなものをいただいて、それこそ判子でもいいので頂いて、1時間やったら1回「あしがるバス」に乗れるような、そういったことは考えられないだろうかというような、そんな意見が出ておりました。

やはり年代的にも高齢者がボランティアをする時代になってきましたので、そうすると安全のことを考えると、そういう年齢になると運転はやめなさい、免許を返納しなさいというような声が出てくるので、元気な方が外へ出て、少しでも社会貢献したいということになると、そういうような便宜を図っていただけるとありがたいなという、そういう声が会員の方から出ていました。

それから、107 ページの7番「観光活動を行う団体への支援」ですけれども、今結構、御朱印帳の流行がありまして、これは大人のスタンプラリーだと思うのですが、「地域全体の魅力ある観光を展開するため、各種団体が行う観光活動への支援を行います」とか、そういうところを考えていただくと、近隣の犬山城とか小牧山城とか、そういうところへのスタンプラリーというようなことを考えていただいたりして、そういう他の市とのつながり、そういうものも考えていただけたら、少しは観光の振興に役立つのではないかなということを思いました。

それからもう1点、127 ページなのですが、協働の方とボランティアとの連携ということで、企画政策課と社会福祉協議会との連携は今どうなっているのかなというふうに思います。先日もボランティアフェスタがありましたが、その時に協働の方のブースもございましたが、こういう点で企画政策課とそれから社会福祉協議会の方との連携ももう少ししっかりと考えていただいて、これからのボランティアに対する支援とか、そういうことをお願いしたいなというふうに思います。以上です。

(野田会長)

ありがとうございます。特に計画そのものを修正するというわけではないということですね。

(福田委員)

はい。

(野田会長)

分かりました。各課の方でこれから実施に移される、もしくは次年度以降に事業を計画される際にご参考にしていただければと思います。ちょうどまい具合に最初の話は政策の連携になっていまして、色々な事業間連携、政策の中身の連携。

二つ目は、自治体間の連携ですので組織間連携になりまして、さらに最後は組織内の連携になっていて、全て連携に関わる話ですので、進めていっていただければと思います。

他にどうでしょうか。高山委員、お願いします。

(高山委員)

すごく細かいところで確認ですけれども、118 ページの「現状と課題」の一番下のところで、「清須城跡」といった場合、「須」の字はこちらで良いのでしょうか。清洲城はさんずいの「洲」ですけれども。

(野田会長)

118 ページの「現状と課題」の最後の四角のところの「朝日遺跡や清須城跡」ですね。この漢字はどちらでしょうか。

(加藤委員)

清洲城がリニューアルする時に、どういう基準でやるのか決めているはずですので、それに合わせていただけますか。

(石附企画政策課主査)

そうですね。一度確認させていただければと思います。

(加藤委員)

この「清須城跡」は大須の「須」ですね。これの方が使用例は古いのです。さんずいの「洲」の方は、江戸時代のもう少し前ですかね、文化人が使いだして、明治の時にさんずいの「洲」に決められた。そういういきさつがあります。ですから、これは文字の校正をする人が一番苦勞するところなのです。

(石附企画政策課主査)

そうですね。今加藤委員が言われたとおり、「清須城跡」と「清洲城下町遺跡」の字を使い分けているということで、意図してこうしているというところではあるのですが、一度確認をさせていただければと思います。

(加藤委員)

お願いします。

(野田会長)

ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。水谷副会長、お願いします。

(水谷副会長)

昨今色々ありまして、確認をさせていただきたいのですが、色々な連携を進めていく上で、市民との連携、組織間の連携、組織内の連携を進めていくに当たり、コミュニケーションというのがとても大事だと思っているのですが、今回この計画を議論する中で、パワーハラの規程とか、それは職員の皆様の中でのパワーハラスメント、セクシュアルハラスメントもあるのですけれども、対業者さんとの関係、業者さんが何かあった時に相談する機関があるのかどうかとか、その辺りの充実というのは清須市さんではどのようになっているのでしょうか。

もう既にあるのであれば、次期総合計画に載せる必要はないですけれども。

(石附企画政策課主査)

どういったことを想定して、業者さんとの間にとりか、どういう組織の形を想定してみえるのかということが少し分からなかったのですけれども、お聞かせいただいてもよろしいでしょうか。

(野田会長)

今の話はそういうマニュアルなり、規程みたいなものを作っているかどうか、そういうことでしょうか。

(水谷副会長)

そうですね。パワーハラスメントって、相談する場所がまずあるのですよね。それは自治体の中の職員さんたちが何か被害を受けた、例えばパワーハラスメントを受けた時に、その人だけで苦しんでいるのではなくて、どこかに相談する、人事なのか、外部の機関があるのか。それが行政内部だけではなくて、対業者さん、例えばコンサルタントの方とか、物を売ってくださる方にパワーハラスメントみたいな

ことがあった時に、受発注関係というのは発注者がどうしても強い立場になりますので、受注者が「こういうことがありました」と相談する機関が、清須市さんの内部にあるのか、もしくは愛知県なり、どこか違うところに相談する機関があるのか、そういう仕組みとして整っているのか。また、マニュアルとか倫理規程みたいなものがあるのかどうか、その辺りです。

(野田会長)

恐らく、多分そこまでのものは、まだ議論はされていないのではないかなと思います。その議論の必要性も含めてですね。今回のこの計画の議論かなという、当然つながってはいますけれども、恐らく結構永遠の課題に近い部分の話があって、ある種の取引というのは、完全に発注される側とする側で、ある種の上下関係にあるのは当然ですし、それは仲間になっていくプロセスでもありますので、受け止め方みたいなものもありますので、多分これからの議論なのではないかなと思います。

ですので、多分マニュアルみたいな形になっていない、対市民とかでしたら、対市民もパワハラとかセクハラみたいなもの、それは多分ないのではないのでしょうか。公務員の倫理規程は一応ありますね。国家公務員の倫理規程とかはありますけれども、そんなに細かいものではないのではないのでしょうか。

(時田委員)

職員のものがあります。今は企業でも規程がないといけないので。

(野田会長)

職員のものはあるのですね。取引関係の会社との場合はあるのでしょうか。

(時田委員)

大きな窓口としては、愛知県に相談窓口があります。業者間のパワハラですね。

(野田会長)

そうですか。組織間ではそういったものが一応あるということですね。それで今のところは、もし何か大きな問題があれば対応すると。

(時田委員)

パワハラとか、色々なハラスメントというのは種類があって、それを今は訴えというふうにやっていますので、多分倫理規程の中に入っていると思います。企業では皆それに入っていますので。

(野田会長)

なるほど、分かりました。すみません、私が存じ上げていなかったのですが、そういう形にはなっているということですね。

(水谷副会長)

ありがとうございます。これからコミュニケーションも活発になっていくと思いますので、良い部分もあれば、そういう意図しないけれども悪くなってしまう部分もあると思うので、そのフォローのことが必要かなというふうに思いました。以上です。

(野田会長)

ありがとうございます。

どうでしょうか。もう少し時間は取れるかなと思いますけれども、皆様から第3回でご意見いただいたところなども修正点となっていますが、それについても何かあればお伝えいただいても結構ですし、どうでしょうか。どんな観点でも結構です。

よろしいでしょうか。おおむねご意見はいただけたかなというふうに思いますが、他にご意見よろしいでしょうか。よろしいですかね。

そうしましたら、一応今回、細かな点で修正するところは出てきましたけれども、それを踏まえた上で、明後日以降、パブリック・コメントの方に回っていきたいと思いますけれども、こういう形で進めるということで、皆様よろしいでしょうか。

「異議なし」の声

(野田会長)

ありがとうございました。

本当に多様な観点から、なおかつ深く突っ込んでご意見をたくさんいただきましたので、大分完成度が高くなってきて、ここまでたどり着けたかなと思います。今日で終わりではないのですけれども、この後また、次回での答申という形に進めていければなと思います。

これである程度のことのできたということで、今日はこれでご意見はすべていただけたかと思えます。

それから、最後にもし何かございましたら、ご意見いただければと思いますが、何かございますか。今日の計画、満足度、それ以外も含めて、何でも結構ですけれども、よろしいですかね。

そうしましたら、以上をもちまして第4回 清須市総合計画審議会を終了したいと思います。皆様、どうもありがとうございました。

それでは、事務局から連絡などございましたらお願いしたいと思います。

4 閉会

(後藤企画政策課長)

皆様、本日はどうもありがとうございました。

最後の審議会のお話になりますが、第5回の審議会につきましては、パブリック・コメントを実施させていただいた後、令和元年11月14日の木曜日、午前9時30分から、同じこの会場で開催を予定しておりますので、スケジュールの方をよろしくをお願いをしたいと思います。

なお、詳細につきましては、改めてお知らせをさせていただきますので、よろしくをお願いいたします。

それでは、本日、長時間にわたりご審議賜りまして、誠にありがとうございました。以上で終了とさせていただきたいと思います。大変ご苦勞様でございました。

問い合わせ先

企画部 企画政策課

電話 052-400-2911 (内線3251)

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するためここに署名する。

署名委員 河野 ともえ

署名委員 後藤 悦男